



<COPY>

ROTARY INTERNATIONAL DISTRICT 260

Governor's Monthly Letter

GOVERNOR SABURO TANABE

OFFICE : INA SEITO CO.,LTD

3-6 KOIE-HONMACHI TOKONAME, AICHI

JAPAN 479

TEL <05693>4-5892

国際ロータリー第260地区

ガバナー 田 辺 三 郎

〒479 愛知県常滑市

鯉江本町 3 丁目 6 番地

伊奈製陶株式会社内

T E L <05693>4-5892

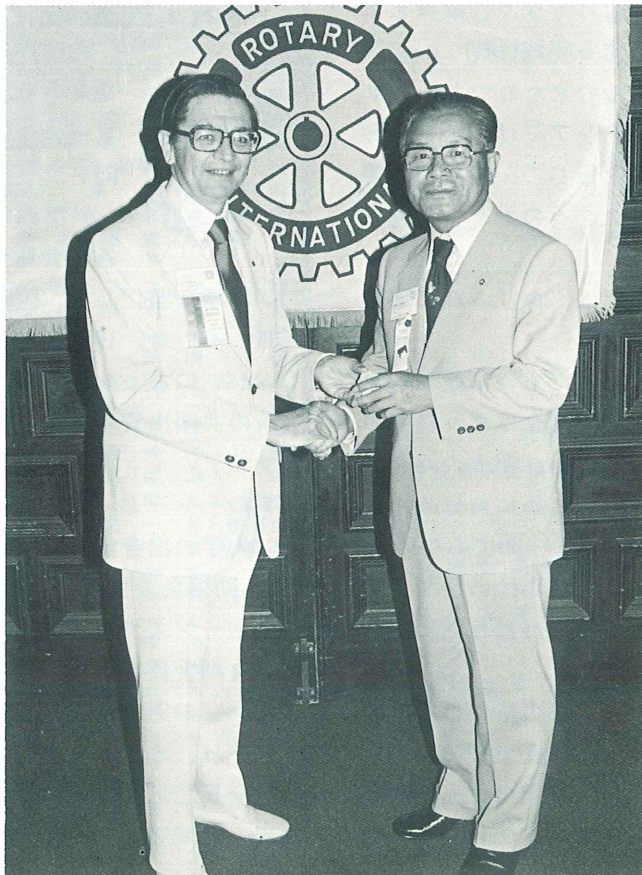
No. 1 1th JULY, 1978

ガバナー月信

第 1 信 昭和53年 7 月 1 日

REACH OUT... 手をさし伸べよう...

会長，幹事殿



1978. 4. 29米国フロリダ州
ボカラトーン、国際協議会
招待昼食会席上 クレム
レノフ新会長と



手をさし伸べよう…

REACH OUT

1978～79年度

R.I.会長メッセージ



ロータリアンの皆さん：

世界の近い将来がどうなるかは、われわれの手中……他人のことに関心を持ち、他人のために奉仕して、他人に向って手をさし伸べる人々の手中にあります。ロータリアンとは奉仕のために双手を広げている人々、他人の生活を豊かにするために喜んでその手をさし伸べようとする人々のことであります。

ロータリアンは、奉仕の道を切り拓く開拓者として、この75年の間、単にロータリークラブの会員であるというだけでなく、会員をまことのロータリアンとする実践行動によって、奉仕の冒険に果敢に挑んで来たのであります。この「行動する」ロータリアンは、未来の形成に寄与する自らの力を信じて、人間の必要とするものを満たそうと、その手をさし伸べるのであります。

超我の奉仕ということは、ありふれた理念ではありません。

同情、友情、理解といったものに乏しい世界にあっては、奉仕という理念はまれにみる貴重なものであって、われわれがそのために時間と能力を費やし、そのために自分のすべてを捧げるだけの価値のあるものであります。そこで皆さん、他人のために奉仕の手をさし伸べようではありませんか。われわれは全力を尽そうではありませんか。

来るべき年度において、私の祈りは同時に皆さんの祈りでもあると思いますが……その祈りとは、ヘレン・ケラーが次のような言葉で述べているものであります。「われわれの祈るべきことは、自分の力にふさわしい任務



が与えられることではなくて、自分の任務にふさわしい力……われわれの心の扉を永遠に叩きつづける大きな望みを抱いて前進する力が与えられることではなければならない」。

敬 具

クレムレノフ1978—79年度国際ロータリー会長

R.I.会長のプロフィール



氏は1949年以来のロータリアンで、現在ナムバー・ロータリークラブ会員で、同クラブの元会長である。レノフ氏は、地区ガバナー、各種委員会委員長、委員及び理事を歴任して、国際ロータリーに貢献している。1973年に退職するまで、ナムバーにあるレノフ・クラーク会計事務所共同出資者であった。氏はオーストラリアのイングハムで生れオーストラリアのチャーターズ・タワーズにあるソーン大学の出身である。会計士協会の会員で、同協会の州委員としても活躍した。又クィーンズランド大学の国際ハウスの理事会副会長であり、サンデル・ガーデン・ビレッジ老人養護施設の会計でもある。

氏は、オーストラリア合同教会の活動的会員であり、その財務理事、基金、投資、地域委員会の元理事でもある。

今こそ出番!!

“Now let's start”

260地区ガバナー 田 辺 三 郎

新会長、幹事の皆さん、いよいよ私達の出番です。

昨年秋、地区ガバナーとして指名されて以来、いろいろ準備を進めて参りました。度々開かれる地区の会合に出席させて頂き、これが大変な勉強となり、地区の皆さんにも顔馴染が沢山できました。また先日は森ガバナーのお骨折りと瀬戸クラブの皆さんのご協力によりまして今年の地区協議会も無事に終了いたしました。

今年は世界大会が16年振りで東京で開かれたため、もう皆さんは直前会長ジャック・デービス、現会長クレム・レノフに会い直接その話を聞く機会を得られたことと思います。彼等がどんな顔をしているか、どんな声をしているか、よくお判りになったと思います。これは例年と著しく異なるところです。

次期ガバナーは国際協議会で得た知識を理解し、自分の年度の行動についての方針、計画を発表する義務があります。私は既に4月初旬に次期地区ガバナーとして、地区の組織、経費予算、地区行事、公式訪問日程などについて愛知・長野の新会長、幹事の皆さんに少し早かったとは思いましたが、お話をいたしました。これは、国際協議会が例年より1か月早く開かれたためもありますが、皆さんにとって早い方が計画が立て易いと思ったからです。実際は国際協議会での本部分針である程度の修正を要するのでありますが、今となっては却って混乱を起すのでそのままといたします。

国際協議会での研修の様子は稿を改めてお話することとし、この間示された新R.I. 会長 Clem Renouf クレム・レノフのテーマにつ

いてお話ししなければなりません。今年の R.I. 会長テーマは、REACH OUT...——手をさし伸べよう...であります。これについての会長の言葉は冒頭に掲げてあるとおりであります。最初は Reach Out to Serve Mankind 手をさし伸べて追求せよ、でありましたから前会長の Serve to Unite Mankind の延長で今年も再び人類を結びつけるために奉仕することに手をさし伸べると解釈すべきでありましょう。

また彼の言葉 Reach Out... Across Your Desk 職域で、Across a Room 会場で、Across a Street 街に出て、Across the World 広く世界で、手をさし伸べようと声明しています。これは、われわれの周囲にもこれを適用し、職業奉仕の分野で、クラブ奉仕の分野で、社会奉仕の分野で、国際奉仕の分野で強く行動することを要求しているのであります。

ご存知のように世界大会では英語のロータリーソングが沢山歌われました。勿論、ボカラトーンの協議会では毎日午前午後、英語の歌をソングリーダーが納得するまで歌わされました。こんどのテーマ「リーチ、アウト」、言葉は簡単であります、底が広くわれわれは充分これを玩味したいと思います。都合よく曲は有名な、「エーデルワイス」(薄雪草)でした。早速わたしは、演奏者に譜に書入れをして貰いました。この一年間、各クラブで日本のロータリーソングと共に大きな声で歌って頂きたいのです。1年も歌えばわれわれは何かそこに見出すことがあると思います。

昨年のガバナーズ、レターでもご存知のように、わたしは殆んど生涯を工場で多くの人々と物を作ることに過ごして参りました。品質の管理、労務の管理には自信をもっています。地区の一般管理の中にどうしても職業奉仕と社会奉仕の中の環境管理の面が頭を出して来ることは否めません。

年々変るガバナーにもそれぞれの特長があり、それで良いのではありませんか。会長さ

んにもそれぞれの特技があると思います。今年はこれを思切り表面に出して下さい。

これからの一年間、健康で会員の皆さんの期待に応えようではありませんか。そのために時間と能力を費し、他人のために手をさし伸べようではありませんか。全力を尽そうではありませんか。

さあ、いよいよ出番です！

森直前ガバナーに お礼の言葉

“Thanks for Mr. Mori”

ガバナー 田 辺 三 郎

第 260地区 4,800人のロータリアンを代表して森直前ガバナーにお礼の言葉を捧げたいと思います。この一年間のご労苦、誠にご苦勞様でした。森ガバナーは真心からロータリーを愛し、「今こそ友情を」をテーマに、74のクラブを結び付け、これを見事に管理されました。そして現在極めて困難である、クラブの拡大を成し遂げられました。これは並々ならぬ熱情がなければ出来ないことでありまして、その経過は度々お聞きして本当に大変なものであると存じました。74のクラブは75、76、77と次第にその数を増して行きます。地区全体、否日本のロータリー、世界のロータリーがこれを歓迎しています。後任の私はその恩恵を受けるものであります。しかし、責任は重大であります。私は勿論、地区全体の皆さんもこの機運をのがさず、努力しなければなりません。

このたびの国際協議会出席につきましてはガバナーご夫妻にお会いして、直接ご指導を受けました。これがどんなに私共夫婦の役に立ったか。他地区のガバナーには判らないのであります。加えて昨秋の私の病気に当りましては誠に適切なご指示を頂き、今日任務に着くことが出来るのは、皆そのお陰であり

ます。公私共にご厄介になりました。

また、高沢地区幹事を始め、豊橋のガバナー事務所の方々には随分お世話、ご指導を頂きました。皆さん、どうも有難うございました。



ボカラトーンホテル

国際協議会から帰って

“The report from
international assembly”

ガバナー 田 辺 三 郎

予定通り、全くすべてが予定通り進んで、4月18日出発、5月7日帰国いたしました。20日間の短い旅ではありましたが、前半の、10日間はエバンストンのR.I.本部を含む親善の旅、後半はそれこそ猛烈な研修の毎日でした。サンフランシスコ→シカゴ（エバンストン）→バアッフアロー→ニューヨーク→ワシントン→オーランド→ボカラトーン→ロスアンゼルスで、例年より1ヶ月早いせいもあって米国は全般に寒く、下着を買った程で、風邪を引く人が沢山いました。わたしもその一人です。ボカラトーンはフロリダ州の南部マイアミの北60キロにあります。

日本のガバナー、ノミニーは22名（他1名はバストガバナーが再任）とその夫人、竹田R.I.理事夫妻、アセンブリー、リーダー上野夫妻、平島氏など55名の大人数で、毎日語り合う機会があり、親しくなるとともに、他地区の話をきき、日本のガバナーの人柄、知識の程度を知ることができました。4月21日、

国際ロータリーの本部エバンストンを訪問しました。事務局の各部機構を見学し、東半球部長や日本人職員にも会い、わたし共が送る書類がいかにか処理されているかを知りました。理事の会議室、ポールハリスの部屋、会長の椅子にも座って見ました。われわれ 260地区各クラブの過去の会員数の増減、出席率、財団寄与率など。また、これからの地区拡大の展望についても記録されています。

そして4月27日からボカラトーンでの8日間の国際協議会 International Assembly は、出発前森ガバナーご夫妻からいろいろお話を聞いて準備をして行きましたので、他地区の人々より大変楽であったと思いました。朝8時から用意が始まり、8:50から歌の練習、これは徹底的にソングリーダーの納得するまで歌わされます。9:00から、50分の本会議は毎日席が変わり、隣にはいろいろな国の人が座ります。10:00から12:00まで20名ずつグループ討議、午後も2:00から本会議、グループ討議と、5:00まで続きます。夕食後も芸能の夕やローマの一夜(映画)、ダンス、マッチド・ディストリクトの会合で10時過ぎまで自由時間が持てません。ベッドに入るや否やぐっすりと眠ります。

本会議は同時通訳があり、日本語で聞くことができます。SAA が頑張っていて空席はメモを探り徹底的に探します。一つの大きなホテルに 1,100人(ノミニー 371人を含む役員、旧役員など公式出席者 451人、その他事務局職員、フロリダクラブ会員、それぞれの夫人)が起居を共にし食べるものも一緒に他処に行くことも出来ません。エレベーターで、廊下で、食堂で、互に簡単な挨拶をし名刺の交換をします。わたしは85人のノミニーと交換できましたが、会ったのはもっと多いのです。そして小さな贈物を手渡します。勿論、数が多いので高価なものはありませんが、それぞれの国の習慣が表われていて面白い工夫がこらされています。妙なもので会う人には

良く会うので段々親しくなります。特にマッチド・ディストリクト、Matched District の555、558、561、563のうち555、561とは大変親しくなり東京大会まで続けました。一晩に5組の夫婦がわたしの部屋に来て椅子もなく困った事もありました。かれらは床のカーペットに座るともいってくれました。1缶のセブンアップを夫婦で飲んでもらいました。

世界のガバナー、ノミニーの出席数は 371 ですが、1番多いのは教育関係者(小、中、高校、大学、その他)が48、医療関係34、法律関係18、政府機関25、金融関係16、農業関係14、自動車関係12が主なところで、わたしのようセラミックは1人もありませんでした。教育と政府機関の多いのは、日本と大変ちがいます。日本は、約半分が、各科のお医



グループ討議中の田辺ガバナー

者さんで教育、政府は一人もおられません。ここにも外国のロータリーの様子が察せられます。名簿には写真と経歴がのっていて、アルファベット順ですぐ探すことができます。

協議会は、国際ロータリーの組織、会員増強、公式訪問、社会、国際、職業、地区大会、新クラブの結成、青少年、広報など一通りの問題をガバナー、ハンドブック、手続要覧に基づいてリーダーの指導で討議し、意見の交換をします。一般にスライドや寸劇を組入れた視聴覚のものが多く興味をつなぐようにします。これはわれわれが大いにクラブアセンブリー、地区アセンブリーに利用すべきであ

りましょう。

握手でその日の相手の気持ちを察することも上野リーダーにお聞きしました。大きな声で挨拶することも段々と馴れて来て、夫人連も終り頃には親善の役目を果していました。これは同じクラブ・地区内各クラブの皆さんにも是非やって頂きたいと思うことの一つです。前会長ジャック・デービス、今年の会長クレム・レノフとの昼食会での握手も温みが残っています。ことにクレムは一つの粗石を手渡されました。協議会で学んだことは粗石でそれぞれ地区に戻って磨き、吟味しようという意味を込めたものでありました。ほん

とくにロータリーの一生で感激の一瞬で思い出に残ることでしょう。

その後思いもかけず便りがありまして、わたしの持っていった石（孔雀石 Peacock stone?）はフランス南部 AVIGNON の176地区ガバナーのMr. HERRヘル氏の手に入ったそうです。彼は大変美しい石で日本の美しさを思い起させるとほめてくれました。この石はこれから日仏交流の礎石になるかも知れません。わたしのもらったのは分析の結果石灰岩で表面に小さな貝殻がついています。ラベルがないので残念ながらどこの国のものかわかりませんでした。

1978～79年度 260地区

分区代理紹介



◎新年度の分区代理の皆さんをご紹介します。



尾張第一分区
鈴木 亮三
(半田)
シニアアクチブ
(タクシー)



尾張第二分区
片山 復四郎
(小牧)
47年会長
(鍛冶工用金物配布)



三河第一分区
花田 利雄
(豊橋)
シニアアクチブ
(建築技師)



三河第二分区
水野 茂樹
(刈谷)
シニアアクチブ
(耐火物製造)



東北信分区
駒崎 鉄五郎
(上田)
シニアアクチブ
(映画館)



南信第一分区
浦沢 富意知
(木曾)
シニアアクチブ
(旅館)



南信第二分区
三井 毅
(駒ヶ根)
シニアアクチブ
(味噌製造)

● 7月の公式訪問日程

10日	尾西	24日	名古屋東
12日	名古屋和合	27日	松川
14日	名古屋港	28日	箕輪
17日	あま	31日	松本南
19日	名古屋南		
21日	一宮北		

R.I. 第260地区 1978～79年度 地区役員及び委員会委員

◎委員長 ○小委員長

ガバナ 一 田 辺 三 郎 (常 滑)
 地区 区 幹 事 牧 野 達 郎 (常 滑)
 地区 区 副 幹 事 中 詔 二 (常 滑)
 地区 区 副 幹 事 藤 井 四 (常 滑)
 地区 区 計 事 藤 井 太 (豊 橋)
 地区 区 問 委 神 野 友 衛 門 (名 古 屋)
 地区 区 委 長 近 藤 次 郎 左 衛 門 (名 古 屋)
 地区 区 委 員 滝 沢 卓 夫 (松 本)
 地区 区 委 員 伊 藤 次 郎 左 衛 門 (名 古 屋)
 地区 区 委 員 佐 藤 知 雄 (名 古 屋 東)
 地区 区 委 員 安 野 譲 次 (一 宮)
 地区 区 委 員 原 享 二 (飯 田)
 地区 区 委 員 鮎 谷 賢 三 郎 (名 古 屋)
 地区 区 委 員 山 田 市 三 郎 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 藤 原 正 男 (諏 訪)
 地区 区 委 員 森 泰 樹 (豊 橋)
 地区 区 委 員 田 辺 三 郎 (常 滑)
 地区 区 委 員 森 泰 樹 (豊 橋)
 地区 区 委 員 藤 原 正 男 (諏 訪)
 地区 区 委 員 山 田 市 三 郎 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 鮎 谷 賢 三 郎 (名 古 屋)
 地区 区 委 員 鈴 木 亮 三 (半 田)
 地区 区 委 員 片 山 復 四 郎 (小 牧)
 地区 区 委 員 花 田 利 雄 (豊 橋)
 地区 区 委 員 水 野 茂 樹 (刈 谷)
 地区 区 委 員 駒 崎 鉄 五 郎 (上 田)
 地区 区 委 員 浦 沢 富 意 知 (木 曾)
 地区 区 委 員 三 井 毅 (駒 ヶ 根)
 地区 区 委 員 森 泰 樹 (豊 橋)
 地区 区 委 員 福 田 源 一 (江 南)
 地区 区 委 員 坂 井 友 彦 (松 本 南)
 地区 区 委 員 白 石 清 吉 郎 (守 山)
 地区 区 委 員 原 享 二 (飯 田)
 地区 区 委 員 野 沢 東 三 郎 (豊 橋 北)
 地区 区 委 員 奥 谷 博 俊 (尾 張 旭)
 地区 区 委 員 墨 末 芳 一 (一 宮)
 地区 区 委 員 久 保 田 元 次 (箕 輪)
 地区 区 委 員 安 野 譲 次 (一 宮)
 地区 区 委 員 小 口 進 一 郎 (岡 谷)
 地区 区 委 員 前 田 長 八 (名 古 屋 東)
 地区 区 委 員 山 田 真 一 (一 宮)
 地区 区 委 員 藤 原 正 男 (諏 訪)
 地区 区 委 員 浅 野 武 雄 (守 山)
 地区 区 委 員 板 倉 三 郎 (蒲 郡)
 地区 区 委 員 山 田 市 三 郎 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 相 羽 鎰 一 (名 古 屋 和 合)
 地区 区 委 員 岩 田 嘉 七 (名 古 屋 北)
 地区 区 委 員 加 藤 邦 太 郎 (長 野)
 地区 区 委 員 島 恒 治 (松 本 南)
 地区 区 委 員 矢 島 謹 一 (上 田)
 地区 区 委 員 飯 島 久 孝 (小 諸)
 地区 区 委 員 加 藤 政 良 (瀬 戸)
 地区 区 委 員 石 井 武 賢 (名 古 屋 港)
 地区 区 委 員 山 口 賢 一 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 川 瀬 保 一 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 河 合 利 周 (名 古 屋 北)
 地区 区 委 員 中 村 文 明 (諏 訪)
 地区 区 委 員 池 上 房 男 (伊 那)
 地区 区 委 員 森 泰 樹 (豊 橋)
 地区 区 委 員 林 達 夫 (名 古 屋 南)
 地区 区 委 員 小 山 福 松 (名 古 屋 和 合)

吉 田 市 郎 (名 古 屋)
 楠 下 仙 三 (名 古 屋 南)
 木 村 長 恕 (長 野 東)
 伊 藤 長 勝 (名 古 屋 西)
 早 稲 田 国 勝 (上 田)
 鈴 木 芳 永 (名 古 屋)
 荒 川 長 太 郎 (名 古 屋)
 浅 野 甚 七 (一 宮)
 河 合 圭 三 (豊 橋)
 余 語 栄 三 (名 古 屋 東)
 梅 田 隆 明 (春 日 井)
 鮎 谷 賢 三 郎 (名 古 屋)
 酒 井 博 司 (駒 ヶ 根)
 神 谷 昭 司 (高 浜)
 磯 村 浩 隆 (豊 橋)
 北 野 幾 造 (長 野)
 星 野 晃 良 (丸 井)
 青 山 孝 太 郎 (稲 沢)
 加 藤 博 (一 色)
 佐 藤 知 雄 (名 古 屋 東)
 鈴 木 武 二 (名 古 屋)
 鈴 木 武 吉 (松 本)
 清 水 武 三 (名 古 屋 北)
 加 藤 一 方 (名 古 屋 子)
 柳 沢 洋 一 (東 海)
 小 島 渡 辺 末 次 郎 (豊 田)
 中 村 達 郎 (名 古 屋 本)
 小 平 進 一 (松 本)
 天 野 龍 夫 (岡 崎)
 伊 藤 昭 彦 (豊 橋)
 伊 藤 智 和 (豊 橋 川)
 花 岡 和 雄 (松 本 南)
 梅 田 章 次 (岡 崎)
 後 藤 新 三 (飯 田)
 浅 井 久 一 郎 (名 古 屋 港)
 内 柴 義 郎 (田 原)
 服 部 友 己 (豊 橋)
 野 口 政 一 (一 宮)
 下 郷 弥 太 郎 (名 古 屋 東 南)
 藤 原 正 男 (諏 訪)
 中 里 三 七 男 (軽 井 沢)
 佐 野 直 彦 (名 古 屋 和 合)
 比 野 安 雄 (名 古 屋)
 日 比 野 忠 雄 (大 町)
 福 島 泰 春 (軽 井 沢)
 佐 藤 中 徹 (半 田)
 田 中 民 也 (名 古 屋 東)
 丸 山 昌 寿 (飯 田)
 中 井 武 雄 (名 古 屋 東)
 松 井 澄 寿 (諏 訪)
 高 隆 一 (豊 橋)
 小 森 久 夫 (豊 橋 南)
 小 山 正 邦 次 (小 諸)
 小 松 浦 井 義 彦 (大 山)
 三 井 藤 哲 彦 (刈 谷)
 伊 堀 江 四 郎 (名 古 屋 中)
 富 安 昌 也 (豊 橋 北)
 川 瀬 保 (名 古 屋 南)

②財 団 学 友

③財 団 推 進

④研究グループ交換

青少年奉仕委員会

①青 少 年 交 換

②インターアクト

③ローターアクト

組合地区クラブ

世界社会奉仕委員会

世界親睦委員会

地区資金委員会

米山記念奨学会

雑誌委員会

オンソーローマ

